

CODE 海外災害援助市民センター
2004 年度事業計画書
2004. 4. 1～2005. 3. 31

1 事業実施の方針

CODE海外災害援助市民センターが特定非営利活動法人となってまだ1年に届かない。でも、衆知のように私たちの活動の背景には阪神・淡路大震災があり、やっと10年を迎えることになる。

「自然災害」としての震災だったが、この 10 年間で特筆すべき災害としてあげられるのは、やはり 2001 年の「9・11」であり、その後のアフガニスタンへの空爆と 2003 年 3 月から始まった米英によるイラク攻撃とその後の深刻な事態だろう。日々メディアから入る光景には目を覆いたくなるものがある。しかし、こんな時だからこそ「あの時」に学んだ「たった一人を大切に」「人の命は尊い」という原点に立ち返り、「報復の連鎖」ではなく、もう一度「支えあいの連鎖」を築くべく日々の活動を積み重ねたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込み額(千円)
海外災害(地)への救援活動事業	救援プロジェクト	随時	イラン南東部地震	1人	対象地域住民	17,794
			アフガニスタン	1人	対象地域児童	4,505
			アルジェリア地震	1人	対象地域住民	1,868
			バンコク・スラム火災	1人	対象地域住民	100
			中国ウイグル地震	1人	対象地域住民	259
	トルコビニンギョル地震	1人	対象地域住民	216		
	被災地支援のためのクラフト事業	随時	全国	1人	全国各地	36
人材育成事業	NGO ことはじめ (NGO・国際協力に関するセミナー)	年間 5 回	神戸市内	1人	大学生など 100人	190
	HAT ツアー	年間 2 回	神戸市内	1人	大学生など 30人	10
災害関連情報の収集及び発信事業	災害情報サイト(CODE World Voice)の運営	随時	全国	5人	不特定多数	1,396
国内外のネットワーク構築事業	関係機関の開催するセミナー、シンポジウムへ出席	随時	全国	10人		72
	留学生セミナー	夏期	神戸市内	1人	留学生 20人	205
	国際会議等の運営・協力	2004年 6 月～2005年 3 月	神戸市内	2人	不特定多数	0
「市民による災害救援」に関する調査・研究事業	協同組合の研究	随時	事務所	1人	理事関係者	0
	予防防災の取り組み	随時	事務所	1人	理事関係者	0
「市民による災害救援」に関する啓発及び広報活動事業	機関誌とインターネット	機関誌は毎月 1 回発行、インターネットは随時	事務所	3人	全国各地 500人/団体	504
	救援プロジェクト報告会	随時	全国	5人	全国各地	582
	冊子等の発行	随時	事務所	2人	不特定多数	1,098
その他の事業	その他、CODE の事業を推進するために必要な事業	随時	事務所	1人		0

事業内容

【海外災害（地）への救援活動事業】

以下に挙げているものは2004年5月時点で既に取り組んでいるものだが、支援が必要とされると判断される災害が発生した場合は、随時、救援活動を立ち上げていく。

イラン南東部地震救援プロジェクト 2003年12月～

本来 CODE は現地でのコミュニティ支援等を重視するところだが、この地震については、あまりにも被害が甚大なことから、仮の拠点としての場や物資の提供もありうることを確認。被災地バムの幼稚園に対するコンテナ提供を実施する。

また被災地の子どもたち交流プロジェクト「小さな絵描きたち～被災地バムの子どもたちが見た風景」被災地交流実行委員会へ加盟し、これに参加する。

今後は、耐震性ワークショップの開催を追求していくとともに、地域経済の柱であるナツメヤシ産業の復旧を目指し、農業コミュニティなどを通しての生産者協働組合の設立などの可能性を調査し、前向きに検討する。また子ども及び女性支援については、現地の NGO を拠点に定着させ、場合によってはその拠点に恒常的な施設（例えばコミュニティ・センターや女性センターなど）を提供していく。

アフガニスタン救援プロジェクト 2002年7月～

2003年度に引き続き、カブール北郊のシャモリ平原を対象にした「ぶどうプロジェクト」を中心に支援活動を継続（他に女性支援センターと2002年地震被災地における学校建設を実施）。CODE のガイドラインでは、プロジェクトの実施期間を最大2年と謳っているものの、アフガニスタンのこの地においては、紛争後からの復興でやっと地域に芽が出てきた状態のところであるため、少なくとも1年間、期間を延長する（2004年4月理事会で承認）。

アルジェリア地震救援プロジェクト 2003年5月～

2003年6～7月に現地を訪問したクワテモック（メキシコ在住・CODE 海外研究員）等を通じて支援プログラムを確定し、集まった募金を被災地に届ける。

バンコク・スラム火災救援プロジェクト 2004年4月～

2004年4月24日に発生したタイ・バンコクのスアンプルースラムでの火災に対し、募金活動を実施。（社）シャンティ国際ボランティア会（SVA）を通じて被災地の復興を支援する。スアンプルースラム地区はSVAが以前から支援をしていた経緯もあり、阪神・淡路大震災の折りは「支援してくれている日本のために」とKOBÉへの募金活動に取り組んだ人々でもある。「困ったときはお互いさま」の市民レベルの実践としても、同地区の復興支援に取り組んでいきたい。

中国新疆ウイグル地震救援プロジェクト 2003年2月～

トルコ・ビンギョル救援地震プロジェクト 2003年7月～

新疆ウイグル地震については神戸華僑総会を通じて、またトルコ・ビンギョル地震については、愛と望みのテントを通じて、集まった募金を被災地に届ける。

被災地支援のためのクラフト事業

被災地の復興を側面から支援するため、被災地のクラフトを取り扱う。2003年度に引き続き、阪神・淡路大震災後、被災者の自立・しごとづくり事業として生まれた「まけないぞう」をCODEの災害救援グッズとして扱うほか、他の被災地でも現地の支援に資するものであれば取り扱いを検討していく。

【人材育成事業】

NGO ことはじめ

本セミナーは入門セミナーと位置づけ、NGO の総論的話から具体的な災害救援や国際理解を深めるための講座を行う。

開催予定：年間を通じて5回開催

参加人数：1回あたり20人

HAT ツアー

HAT 神戸内の国際機関を訪問する。国際協力の現場で働くスタッフと交流することで、国際交流を身近に感じてもらうとともに、国際機関の役割や NGO との連携の可能性について考える。

開催予定：年間を通じて 2 回程度

参加人数：1 回あたり 15 人

【災害関連情報の収集及び発信事業】

災害情報サイト(CODE World Voice)の運営

特に災害時の多様な現地情報を発信することに工夫をし、また、UNOCHA リリーフウェブの仮訳発信も強化し、情報センターとしての機能を充実させる。

【国内外のネットワーク構築事業】

関係機関の開催するセミナー、シンポジウムなどへの積極参加

ネットワーク形成の一環として、可能な限り積極的に参加し、交流を行う。

留学生セミナー

阪神・淡路大震災の経験を海外に発信するために、留学生を招いたセミナーを行う(JICA 兵庫との連携事業)。

開催予定：夏期に 1 回開催

参加人数：20 人程度

国際会議等の運営・協力

2005 年 1 月に実施される国連世界防災 10 年会議について、NGO パートの運営に参画する。

またそれに先だって 2004 年 12 月に実施される「市民と NGO の『防災』国際フォーラム」の運営に協力する。

【「市民による災害救援に関する啓発及び広報事業】

機関誌とインターネット

CODE の機関誌である「CODE レター」を発行する。

発行予定：月刊

発行部数：500 部～1,000 部

平行して、ホームページやメーリングリストを利用したインターネットによる情報発信も行っていく。特に英語による発信を充実させ、英語版ホームページを媒介として海外とのネットワークを築いていく。

救援プロジェクト報告会

CODE が行っている救援プロジェクトについて、各地の支援者とともに報告会を企画、実施する。市民による災害救援への一層の理解と、新たな支援者の獲得をはかる。

冊子等の発行

2003 年度に実施した CODE 寺子屋の講演録をブックレット化し、発行する。また、これまでに作成したブックレット・グッズを継続して取り扱う。

CODE 寺子屋ブックレット：800 部×3 巻

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

CODE 海外災害援助市民センターの目的達成のために必要な事業を随時実施 ¥：する。

予防防災への取り組み

今後取り組みが重視されていく「予防防災」について、勉強会や検討会を通じて理解を深めていく。

スタッフのスキルアップ

スタッフのスキルアップのため、関連するセミナーや研修会に積極的に参加する。